

議会だより



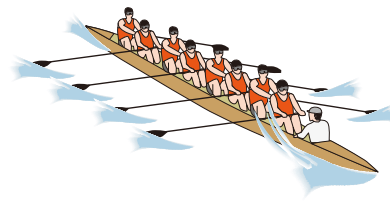
CONTENTS

- | | |
|--|--------------------------------|
| ● ローイングのまち「みはま」/
三方五湖ネイチャークルーズ 2 | ● 常任委員会の動き 7 |
| ● 原子力発電所特別委員会 3 | ● 令和8年第3回美浜町議会定例会議案 8 |
| ● 令和8年度6月補正予算 4 | ● 組合議会報告 9 |
| ● 現地視察 5 | ● 一般質問 10～15 |
| ● 令和8年度北陸新幹線小浜・京都ルート建設
促進同盟会総会・決起集会 / 広報研修会 6 | ● 美浜町の関係人口について / 編集後記 16 |

ローイングのまち「みはま」

2000mコース開設

記念式典・記念レース



関電ローイングセンターみはま2000mコース開設に伴い、安全祈願と記念式典・記念レースが行われ、式典等には町長や県知事の代理として文化・スポーツ局長などが出席され、議会からは竹仲議長と幸丈総務文教常任委員長が出席しました。

2000mコースが開設されたことにより、今後大きな大会の開催や交流人口の拡大などが期待されます。また、記念レースでは関西圏の9大学の男女12チームが参加して、迫力あるレースを繰り広げていました。

三方五湖ネイチャークルーズ

20万年にふれる水しるべ



国内初の再生可能エネルギーで航行する電池推進遊覧船「三方五湖ネイチャークルーズ」。三方五湖の美しい景観と豊かな自然を、環境にやさしい新しいスタイルで楽しめる新たな魅力として注目されています。

遊覧船はエンジン音や振動が少なく、水面を滑るように静かに進みます。久々子湖から浦見川を通り、水月湖へ向かうコースでは、四季折々に表情を変える湖や山並み、木々に囲まれた水辺の風景を

ゆったりと眺めることができます。

三方五湖は約20万年前の地殻変動によって生まれたと言われています。その悠久の歴史と豊かな自然を感じながら、環境と共生する未来の観光を体験してみませんか。

町内の皆さまも、改めて身近にある地域の魅力を再発見し、特別なひと時を過ごしてみてください。

HP



Instagram



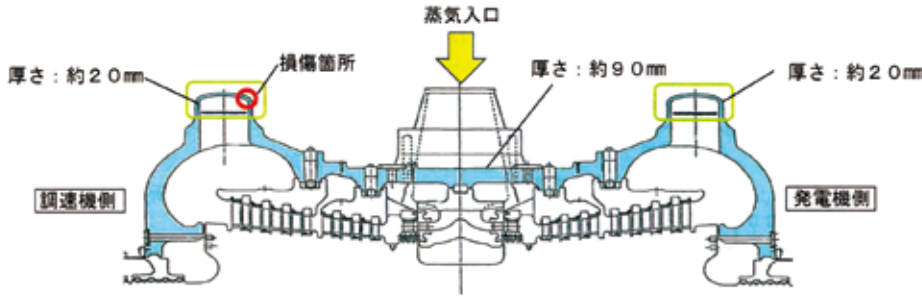
【運行情報】 運行時刻：① 9:30～10:20 ② 10:45～11:35 ③ 13:00～13:50 ④ 14:15～15:05 ⑤ 15:30～16:20
料 金：大人 1,980 円／小人 990 円／未就学児 無料
定 休 日：水曜日（祝日の場合はその翌日）・年末年始（12/29～1/3）

6月22日(月) 原子力発電所特別委員会にて、5月に発生した美浜発電所3号機の高圧タービン上部車室からの蒸気漏れについて関西電力(株)より原因や再発防止策の報告を受けました。出席議員からは、「目視点検による確認は、熟練された職員でなければ、判断が難しいため、検査機器で調査すべき」や「定期検査の際、点検箇所トラブルのあった箇所は含んでいたのか」等、様々な意見が出ていました。

関西電力(株)から説明があった内容については記事をご確認ください。

美浜発電所3号機 高圧タービン周辺からの 蒸気漏れに関する 原因と対策について

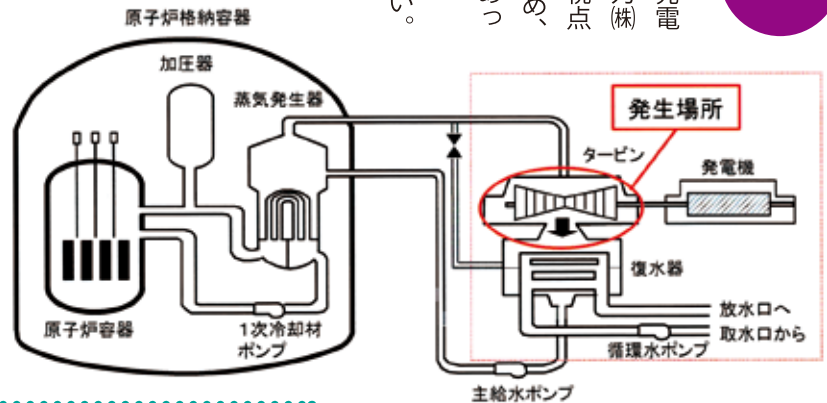
<損傷箇所確認>



美浜発電所3号機において、5月8日、高圧タービン周辺からの蒸気漏れを確認したため、原子炉を手動停止しました。その後の点検により、2つある高圧タービン車室^{*}の閉止キャップのうち、調速機側の閉止キャップに損傷が確認されたことから、当該閉止キャップを工場に搬送し、詳細調査を実施しました。なお、環境への放射能の影響はありませんでした。

※ 蒸気発生器で発生した蒸気で回転するタービンの羽根(動翼)や固定翼(静翼)を覆うカバー

<系統図>

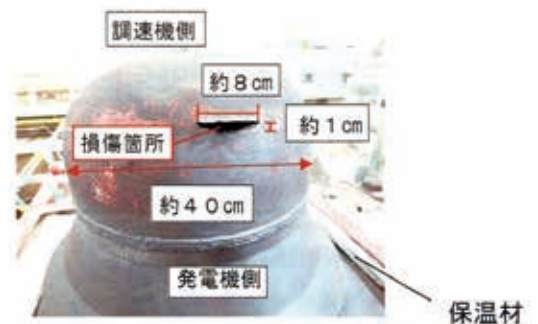


推定原因

当該閉止キャップの内面において、高温高圧の蒸気によるFAC^{*}が発生し、内面から外面に向けて減肉が進行したことで、損傷に至ったと推定しました。また、当該閉止キャップの減肉の進行を適切に把握できなかったことについては、高圧タービン車室内の腐食は、クレーター状に進行するものと認識していたため、当該閉止キャップの内面荒れを減肉の進行とは捉えず、クレーター状の減肉のみを管理すれば問題ないと判断していたことが原因であると推定しました。

※ FAC (Flow Accelerated Corrosion) 流れの影響により金属表面の保護皮膜が水中へ溶出することで、腐食が加速する現象。主に炭素鋼で発生する。

●調速機側閉止キャップ



対策

- 上部車室閉止キャップ(発電機側・調速機側)について、内面にステンレス加工を施し、耐腐食性を向上させた閉止キャップに交換します。また、今後は、閉止キャップを高圧タービン車室内面とは別の管理対象とした上で、目視点検の記録を画像でも保存するなど、減肉状態を把握・判断できるようにします。
- 目視点検の着眼点などを整理したガイドラインを制定するとともに、当社の工事担当者を対象に、本事例を題材として、教育(事例研修)を実施します。
- 本事象を踏まえ、美浜発電所3号機、高浜発電所1～4号機、大飯発電所3、4号機における高温・高圧の蒸気や水が流れるすべての機器を対象に、保全が適切に実施されていることを改めて確認します。

国吉城址及び周辺地区 史跡整備事業

旧田辺家住宅門塀再建工事（国吉城歴史資料館） **3120万6千円**

表門：旧田辺家母屋正面に置かれた薬医門形式 裏門：旧田辺家上玄関横の庭園との仕切り



再現イメージ図



再現イメージ図

令和8年度6月補正予算

一般会計 **6億8842万9千円**

予算
チェック

町民の生活を守る予算を
住民目線で見る！！

	6月補正予算額	補正後予算額
議会費	45万5千円	1億3,208万4千円
総務費	1億7,899万3千円	17億7,746万6千円
民生費	2,453万4千円	22億506万5千円
衛生費	2,665万8千円	14億92万6千円
農林水産費	6,038万3千円	3億9,960万1千円
商工費	4,309万5千円	4億4,645万2千円
土木費	2億1,897万3千円	6億2,423万2千円
消防費	187万円	4億3,586万4千円
教育費	1億3,346万8千円	13億7,936万6千円

北前船日本遺産 活用事業

1446万7千円

早瀬地区
主な観光資源

水無月神社（神輿）
常夜灯
北前船船主「岩野家」
布絵ミュージアム 他

感震ブレイカー 購入補助

20万円

防災力強化事業

補助対象者

- ・町内に住所を有し、町内の住宅に居住する者
- ・自ら居住するために町内に住宅を新築又は購入しようとする者

補助対象

分電盤タイプ(内蔵型)

分電盤タイプ(後付型)



コンセントタイプ

簡易タイプ



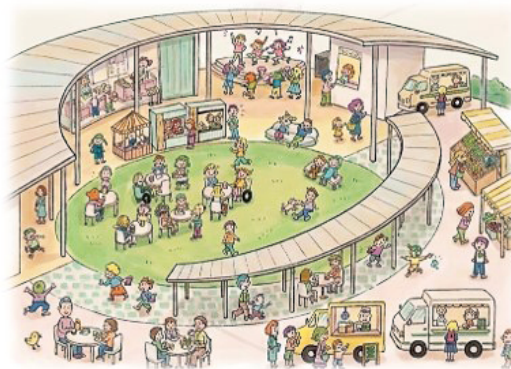
補助対象経費の3分の2（補助上限額2万円）

みはまシナプスプロジェクト事業

みはまトライアルフィールド

4553万3千円

JR美浜駅から生涯学習センターなびあすまでの空間に新たな挑戦の舞台としてトライアルフィールドを整備。町民参加のまちの挑戦を支える場として活用。



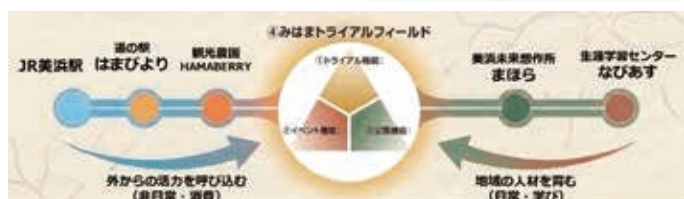
事業用地取得・実施設計 令和8年度～

造成工事 令和8年度～

建築工事 令和9年度～

主な機能

- トライアル機能
- イベント機能
- 公園機能



未来につなぐふくいの

農業応援事業

2475万円

- ・新規就農支援
- ・初期投資促進事業補助

明かりのまちづくり 事業

4950万6千円

- ・防犯街路灯LED化更新工事

敬老会助成事業

993万2千円

レイクセンター

運営事業

1307万円

- ・遊覧船改修工事
座席数を増やして大型観光バスの観光客を一括受け入れ
- ・遊覧船モニタリングシステム業務委託



ネイチャークルーズ

道路維持事業

8400万9千円

- ・日向湖おもてなし魅力アップ工事費
- ・若狭湾サイクリングルート整備工事費

海岸漂着物撤去

処分事業

2246万円

森林環境保全整備

事業

1593万9千円

小倉山山頂公園

美浜の山を体験できるあそび場

— 第2期工事完了 —



全景写真



説明を受ける議員

令和6年より整備を進めてきた「小倉山山頂公園」の2期工事が完了した。ブランコやスカイロープを備え、ベンチもあり、憩いの公園としてスタートした。今後「小倉地区」からの遊歩道を計画しているが、議員から山頂にトイレ施設が必要との声が上がっていた。



あずまや



展望デッキ

町内施設を議員の目でチェック!!

6月17日
議会活動

現地視察

こどもまんなか

町内保育園

一人一人が安心して
自己発揮できる
場づくり

みずうみ保育園 あおなみ保育園 せせらぎ保育園



室内遊戯

町内保育園では「こどもまんなか」をテーマに3園が同じ方向性を持ち、美浜町らしい保育を目指している。なお、「みずうみ保育園」では必要に応じて利用できる「誰でも通園制度」や保護者の急な用事に対応できる「二時保育事業」も行って利便性を高めている。



夏場に園庭に日陰が欲しい等、議員から意見が出た



令和8年度 北陸新幹線小浜・京都ルート 建設促進同盟会総会・決起集会



去る6月13日令和8年度北陸新幹線小浜・京都ルート建設促進同盟会総会・決起集会がJ A福井県小浜支店で開催されました。

本同盟会は美浜町を含む嶺南地域の市町で構成され、北陸新幹線敦賀～新大阪間延伸に関するルート8案が検討される中、費用対効果の一体評価が最も高い小浜・京都ルートの早期着工を求める決議を採択しました。当日は石田知事をはじめ、県選出の国会議員や県会議員、多くの関係者が出席し、北陸新幹線が小浜・京都ルートでつながった嶺南地域の将来について意識を共有する場となりました。

決起集会の最後は、出席者全員で「小浜・京都ルート実現に向けてのガンバロー三唱」を行い、事業の早期実現を祈念して閉会しました。

北陸新幹線の敦賀～新大阪間延伸が実現すれば、関西圏と北陸・信越圏間の移動時間の短縮効果、交流人口の拡大が期待され、観光振興や地域経済の活性化につながるものと期待されます。



広報研修会



6月29日に福井県自治会館において、県内7町の町議会会の広報委員が集まり、広報研修会が行われました。美浜町からは議員6名と事務局1名が参加しました。

講師として、朝日新聞元校閲センター長で、未来交創株式会社社代表取締役の前田安正氏を迎え、「情報としてのことばを伝える」というテーマのもと講義を受けました。

「文章とは何か」という基本的な知識から、書き方による伝わり方の違い、「起承転結」の考え方など、どのように文章を構成すれば簡潔かつ正確



に、読みやすいメディアを提供できるのかわかりやすく解説していただきました。

後半には、実際に町が発行する議会だよりを用いてクリニックが行われ、4町が紙面の診断を受けました。各町の実例を用いて構成についてのアドバイスを受け、比較しつつ読者の立場で見やすい広報とはどういったものかを学びました。

美浜町の議会だよりも委員会で企画、執筆しています。今後も町民の皆様やすんで読んでいただける紙面づくりを目指します。皆様からのご意見やアイデアもお待ちしております。

常任委員会の動き

詳細な内容は議会ホームページをご覧ください

<https://www.town.fukui-mihama.lg.jp/site/town-council/>



予算決算常任委員会

議案第38号 令和8年度美浜町一般会計
補正予算（第1号）

問 町の基幹系行政情報システムの標準準拠システムへの移行はいつまでにしないといけないのか。

回答 当初は令和7年度末であったが、システムの不具合があり、令和12年度末まで延長された。

問 レイクセンター運営事業の中の遊覧船改修工事費731万5千円は何をするのか。

回答 大型バスの団体客40名のお客に対応出来るようにグリープの座席数を31席から42席に増やすことと、レイアウトの変更を行う。

問 多様な宿泊施設設備支援事業補助2000万円の具体的な内容は何か。

回答 一つはサイクリングに特化した部屋を新規で作り、もう一つはいろんなペットと泊まれる宿泊施設を1棟建てるものである。

問 小倉山山頂公園にトイレを作る計画はあるのか。

回答 現在、トイレを作る計画はない。

意見 周辺にトイレが無いので、トイレを作ることを計画してもらいたい。

問 防災力強化事業の感震ブレイカー購入補助の20万円を増額することはできないのか。

回答 今年度から3年間実施する予定で、募集が多いようであれば増額することも検討する。

問 北前船日本遺産活用事業の施設整備業務委託料144万7千円は何か。

回答 基本計画策定にかかる費用と北前船伝承館の設計業務にかかる費用である。

議案第42号 令和8年度美浜町下水道事業会計補正予算（第1号）

問 処理場修繕改築工事実施設計業務委託料1000万円の減額は発注前の減額なのか。

回答 発注前の減額である。

総務文教常任委員会

議案第36号 専決処分の承認を求めることについて（美浜町税条例の一部を改正する条例の制定について）

問 個人町民税関係のうち優良住宅地の造成等のための課税等の特例はどのようなものか。

回答 国、地方公共団体、土地開発公社などが行う優良な宅地造成事業のために、個人が所有期間5年を超える土地等を譲渡する場合、譲渡所得の一部について税率が軽減がされるものである。

問 スマートタウン構想における土地の譲渡は対象になるのか。また、こうした制度を積極的に伝えるべきと考えるがどうか。

回答 スマートタウンの造成事業に関しては、土地収用法あるいは本件課税等の特例など、最適な特例措置の適用が受けられるよう税務署と協議した上で地権者に伝えていく。

議案第37号 専決処分の承認を求めることについて（美浜町国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について）

問 この改正は全国一律で適用される内容との理解で良いか。

回答 子ども・子育て支援納付金に係る規定の追加や、国民健康保険税の課税限度額、軽減判定基準の見直しなど、いずれも国の法律や地方税法施行令等に基づくものである。

問 改正項目の出産被保険者に係る軽減措置の軽減期間はどれくらいか。

回答 産前産後期間に係る軽減措置として、出産予定月の前月から4ヶ月間の所得割と均等割額を軽減するものである。

産業厚生常任委員会

議案第44号 美浜町上水道事業及び下水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

問 新設された地方自治法第243条の2の7は、どのような理由で追加されたものか。

回答 地方自治法の改正に伴い、公金収納事務のデジタル化に関する規定を整備するため追加されたものである。

問 地方自治法の条項追加に伴い、後続条文の繰り下げが行われているが、これは全国共通の改正なのか。

回答 今回の改正は地方自治法改正に伴う全国共通の対応であり、第243条の2の7が新設されたことにより、後続条文番号が繰り下げとなったものである。

問 地方自治法第243条の2の9に関連する職員の賠償責任について、過去に上下水道事業で該当事例があったのか。

回答 過去に該当する事例はなかった。

令和8年 第3回 美浜町議会定例会 議案

令和8年 第3回美浜町議会定例会期間：令和8年6月8日～6月25日

議案番号	件 名	委員会付託	議決結果
議案第 33 号	美浜町印鑑条例及び美浜町手数料条例の一部を改正する条例の制定について 「出入国管理及び難民認定法等の一部を改正する法律」の施行により、マイナンバーカード機能を付加した特定在留カード及び特定特別永住者証明書においても印鑑登録証明書等が取得可能になることに関する関係規定の改定。	—	可 決
議案第 34 号	財産の取得について 美浜町 B & G 海洋センターにあるローイング艇の更新（6 艇）。	—	可 決
議案第 35 号	専決処分の承認を求めることについて（令和 8 年度美浜町国民健康保険事業特別会計補正予算（第 1 号）） 4 月 1 日から開始の子ども・子育て支援金制度の創設に伴い、312 万 6 千円を増額し、歳入歳出予算総額を 11 億 1027 万 6 千円とする専決処分の承認。	予算決算	可 決
議案第 36 号	専決処分の承認を求めることについて（美浜町税条例の一部を改正する条例の制定について） 地方税法等の一部を改正する法律の一部が 4 月 1 日から施行されたことに伴う、軽自動車税関係、個人町民税関係、固定資産税関係に関する関係規定を改正する専決処分の承認。	総務文教	可 決
議案第 37 号	専決処分の承認を求めることについて（美浜町国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について） 子ども・子育て支援金制度の創設及び地方税法施行令等の一部を改正する政令の公布に伴い、関係規定を改正する専決処分の承認。		可 決
議案第 38 号	令和 8 年度美浜町一般会計補正予算（第 1 号） 6 億 8842 万 9 千円増額し、歳入歳出予算総額を 94 億 9440 万 7 千円とする。	予算決算	可 決
議案第 39 号	令和 8 年度美浜町国民健康保険事業特別会計補正予算（第 2 号） 65 万 3 千円を増額し、歳入歳出予算総額 11 億 1092 万 9 千円とする。		可 決
議案第 40 号	令和 8 年度美浜町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第 1 号） 64 万 1 千円を増額し、歳入歳出予算総額 1 億 9932 万 4 千円とする。		可 決
議案第 41 号	令和 8 年度美浜町介護保険事業特別会計補正予算（第 1 号） 393 万 2 千円を増額し、歳入歳出予算総額 11 億 4554 万 3 千円とする。		可 決
議案第 42 号	令和 8 年度美浜町下水道事業会計補正予算（第 1 号） 380 万 3 千円増額し、予算総額を 10 億 1412 万 8 千円とする。		可 決
議案第 43 号	美浜町税条例の一部を改正する条例の制定について 地方税法等の一部改正する法律等が公布されたことに伴う、個人町民税関係、固定資産税関係の関係規定の改正。	総務文教	可 決
議案第 44 号	美浜町上水道事業及び下水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例の制定について 地方自治法の一部改正する法律等が公布されたことに伴う、条ずれによる条例中の引用箇所の改正。	産業厚生	可 決
同意第 5 号	美浜町農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて 浅妻孝彦氏を選任する。	—	可 決
同意第 6 号	美浜町農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて 山本和美氏を選任する。	—	可 決
同意第 7 号	美浜町農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて 松下勝美氏を選任する。	—	可 決
同意第 8 号	美浜町農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて 大野克弥氏を選任する。	—	可 決
同意第 9 号	美浜町農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて 高木宏和氏を選任する。	—	可 決
同意第 10 号	美浜町農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて 大塩友之氏を選任する。	—	可 決
同意第 11 号	美浜町農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて 軍場康代氏を選任する。	—	可 決
同意第 12 号	美浜町農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて 寺尾和美氏を選任する。	—	可 決
同意第 13 号	美浜町農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて 由利博氏を選任する。	—	可 決
同意第 14 号	美浜町農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて 山本孫実氏を選任する。	—	可 決
同意第 15 号	美浜町農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて 山本文昭氏を選任する。	—	可 決

※略称 < 予算決算 > …… 予算決算常任委員会 < 総務文教 > …… 総務文教常任委員会
< 産業厚生 > …… 産業厚生常任委員会

組合議会

敦賀美方消防組合議会

令和8年5月31日(日)、「令和8年度敦賀美方消防組合消防大会」に出席しました。

当日は快晴のもと、松原公園内での「消防関係殉職者慰霊祭」に始まり、笹の川での「一斉放水」では、はしご車による高度40メートルからの迫力ある放水が非常に印象的でした。その後、相生町大通りでの「分列行進及び観閲式」、きらめきみなと館での「表彰式」等が執り行われ、最後に万歳三唱で締めくくられました。

日頃からの防災意識を持ち、消防職員と団員共に「災害に強い、安全で安心なまちづくり」に取り組めます。



福井県消防操法大会

消防操法大会へ向けた練習訪問

7月18日(土) 開催の「第75回福井県消防操法大会」に向け、5月から訓練を重ねる美浜消防団の練習現場を6月26日(金)に訪問しました。敦賀美方消防組合の代表として、ポンプ車操法の部に第1分団、小型ポンプ操法の部に第3分団第3部が出場します。



出場消防団員を称える

副管理者激励会

7月13日(月)に本大会への出場を目前に控えた団員たちを激励するため、敦賀美方消防組合の副管理者である町長による「副管理者激励会」が行われました。長期間にわたる訓練が結果に繋がるよう、本番での健闘を期待しております！



公立小浜病院組合議会

公立小浜病院は、小浜市、若狭町、おおい町、美浜町の1市3町が共同で組合方式により運営を行っています。その運営にかかる予算、条例などの重要な意思決定は組合議会で審議することとされ、美浜町議会からは議員3名(梅津議員、田辺議員、上村議員)が選出され、その役割を担っています。

また、美浜町民にとって馴染のあるレイクヒルズ美方病院は、公立小浜病院に属する組織として運営されています。

(令和8年第1回議会)

3月27日(金)に令和7年度補正予算、令和8年度予算、小浜病院の運営にかかわる各種条例に関する議案の審議が行われたほか、令和8年3月に改選された美浜町議会の3名議員交代について報告されました。

(定例監査 4月度、6月度)

美浜町議会選出議員からは、組合議会を代表して1名(上村議員)が監査委員の任に当たることとされ、年間を通じた定例監査において、病院の経営状況の確認や運営課題のヒアリングを実施しています。(実施日:4/27、6/23)

引き続き美浜町民の暮らしに関わる医療体制の維持に向け、病院経営の監視や意見発信に努めてまいります。

美浜・高島広域避難・連携道路 早期実現特別委員会



美浜・高島広域避難・連携道路
早期実現特別委員会の様子

3月に委員が一新された「美浜・高島広域避難・連携道路早期実現特別委員会」では、4月9日(木)に委員6人が議長と共に高島市議会を訪問し、高島市議会の河越議長、藤田副議長と面談しました。その中で、今後の交流や連携の在り方について意見を交わし、美浜町と高島市を結ぶ道路の目指すビジョンを共有しました。

この道路は、原子力災害や自然災害時の避難広域道路としての役割だけでなく、両市町の交流・物流・観光を支える重要な連携道路にもなるもので、相互の将来発展にとって不可欠です。1日も早い道路の整備・着工を強く願っています。

一般質問

一般質問はMMネットの行政チャンネルで翌日の午後8時、翌々は午後1時から放送されています。



藤田 憲弘 議員

現場から問う安全・安心な生活道路と「命の道」・美浜・高島広域避難・連携道路

町民の暮らしを支える道路維持補修、物価高騰下での発注、核燃料税の活用、美浜・高島広域避難・連携道路について、徹底現場主義と徹底住民目線、将来の責任の三つの視点から町の考えを問う。

問

道路維持補修の現状把握と、安全・安心な道路環境の確保について伺う。

今回、町内道路を自分の足で歩いて確認し、舗装の劣化、段差、路面の損傷、側溝周辺の沈下など、補修が必要と思われる箇所を64ヶ所把握した。町は道路損傷をどのように把握し、復旧につなげているのか。

町長

町道は、日常生活、ライフラインの収容、避難や救助に資する重要な社

会インフラである。老朽化による段差、陥没、亀裂等の不具合も承知しており、限られた人員と予算の中で、通行の安全確保を最優先に対応している。今後は、集落内幹線道路の全面舗装改良を計画的に取り組むよう検討していく。

土木建築課長

町道約180kmのうち、1級・2級町道42kmを中心に定期的なパトロールしている。区長や住民からの情報提供に加え、町公式LINEの道路損傷通報システムも活用し、不具合の早期把握に努めている。危険箇所は速やかに対応し、必要に応じて工事発注により復旧する。

問

道路補修の優先順位について、道路の役割、利用者属性、地域バランス等を踏まえ、どのように総合判断しているのか。

土木建築課長

令和6年度に優先順位、勘案項目を定め、緊急性、必要性、利用者、交通量、通学路、利便性、地元協力、地域バランス、予算や人員などから総合的に判断している。今後も利用者目線

で危険箇所を把握し、高齢者の視点も踏まえ、効率的で効果的な補修に努める。

問

物価高騰により、同じ予算でも維持補修の施工延長や面積が減っているのではないかと。早期発注や発注の平準化に加え、単価契約による柔軟な補修も有効ではないか。

土木建築課長

道路部門の建設資材物価指数は、平成27年を100とする令和8年3月は147で、約5割上昇している。今年度は4月に舗装補修工事4件を前倒し発注し、現時点で昨年の倍以上となる約7割を執行している。先行発注した4件は幹線道路であるが、集落内の幹線道路も優先的に補修していきたい。道路の補修だけでなく、安全施設等についても単価契約を行い、迅速に対応できる体制を整え、道路の安全管理に努めるとともに、喫緊に必要な予算の確保し、効果的かつ効果的な発注を行っていき

問

核燃料税は、原子力発電所の立地があるか

らこそ生じる財源であり、立地地域の安全安心、地域振興、防災対策、生活基盤整備等により手厚く配分されるべきではないか。

町長

本町は長年、原子力政策に協力し、事故や風評被害などのリスクも受け止めてきた。安全安心の最大限の確保や地域振興のため、配分比率を元来の形に戻し、手厚く配分されることも含め、核燃料税交付金の充実強化を県に強く求めていく。

問

美浜・高島広域避難・連携道路の進捗と今後の見通し、町民への説明、機運醸成について伺う。

防災・技術統括幹

令和7年の立地地域の将来像に関する共創会議で、美浜・高島道路が具体的に整備を進める路線として位置付けられ、令和8年1月に県が概略設計を発注した。今年度は概略設計とルート決定を進め、令和9年度以降、予備設計、詳細設計、用地補償、工事へ進む予定である。進捗を富士登山に例えるなら、共創会議で位置付けられた段階は、車等で行くこ

とができる5合目、工事完成を頂上の10合目とすれば、現在は5合目から少し登ったところである。門は開いたが、これから険しい山や谷もあるため、国、県、高島市、滋賀県、そして議会と協力し、頂上を目指して登り切りたい。今後必要や効果を発信する。

まとめ

道路を良くすること、財源を確保すること、税金を有効に使うこと、立地として声を上げること、避難道路を実現することは、町民の暮らしと安全・安心、美浜町の将来につながります。現場で確認した課題を踏まえ、迅速で計画的な対応を求めました。

映像はこちらから





なかむたはるこ 議員
中牟田 春子

高齢者福祉の 充実について

答 実情即した効果的な
福祉施策の充実強化
に努める。

問

本町における高齢者
は3390人。本町人
口の38.3%が高齢者です。
本町の人口数が減る中で高齢
化率は、年々上昇し全国平均
の29.3%を上回って高齢
化が進行していますが、本町
における高齢者福祉施策の現
状と課題についてどのように
考えておられるのか伺う。

町長

本町では少子高齢化
が急速に進行しており、
高齢化率40%という全国平均
(令和6年10月1日現在29.
3%)を大きく上回る極めて
高い水準に達しています。こ
れからも、上昇傾向が続くと

見込まれることから、介護、
医療生活支援をはじめとする
高齢者福祉施策の重要性は一
層高まるものと考えています。
このような状況のなか、地域
における介護や福祉の提供を
維持していくためには、高齢
者一人ひとりの健康の維持増
進、社会参加や介護予防の推
進がこれまで以上に必要に
なってきます。

また、併せて、増大する介
護ニーズと限られた人的資源
とのバランスを図り、介護保
険制度を安定的かつ持続可能
な形で運営していくことも、
我々の重要な責務であると認
識している。「高齢者はまちづ
くりの貢献者」であるという
認識のもと、住み慣れたこの
美浜町で健康で豊かに自分ら
しい生活を送れるよう、引き
続き皆様の声やお力添えをい
ただきながら実情に即した効
果的な福祉施策の充実強化に
努める。

健康福祉 課長

特に今後は、医療や
介護ニーズがより高ま
る後期高齢者や高齢者
単身世帯等の増加が予測され

る中、孤立防止や生活支援の
充実、さらには住み慣れた地
域で在宅生活をいかに支えて
いくかが大きな課題であると
認識している。高齢者が住み
慣れた地域で自分らしく過ご
すことができるよう、生きが
いづくりの創出や、高齢者自
身が担い手となる仕組みの構
築が必要です。

また、要介護状態にならな
いための介護予防・フレイル
予防につながる住民の主体的
な活動を支援し、認知症になっ
ても安心して暮らせるための
理解促進と支援体制の強化が
必要と考えています。町では
「第9期介護保険事業計画及び
高齢者福祉計画」に基づき、
特に次の3点を重点事項とし
て掲げ、各種施策を推進して
います。

1点目が「地域社会への積
極的な参加の促進」として、
各地区の「サロン」をはじめ
とした、高齢者の社会参加の
場の設置・運営を支援すると
ともに、地域住民主体の健康
づくり・介護予防につながる
活動を促進しています。

2点目は、「自立支援・重度

化予防の推進」として、住民
主体の介護予防活動の支援や
リハビリ専門職と協働の介護
予防活動などを推進していま
す。また、介護予防事業と高
齢者の保健事業を一体的実施、
フレイル（虚弱）状態の高齢
者を適切な医療や介護サービ
スにつなぐことで、疾病予防・
重度化予防を促進しています。

3点目は、「認知症施策の充
実」として認知症サポーター
養成講座の開催等を通じて、
認知症への理解促進を深める
とともに医療との連携を密に
した早期対応など、認知症の
共生と予防を推進している。

不登校の実態と 対策について

答 学校や家庭、関係機
関が連携しながらき
め細かな支援を行う。

問

本町の令和7年度に
おける不登校児童、生
徒の人数と不登校となった要
因を伺う。

教育総務 課長

令和7年度の本町の
不登校児童・生徒数は、
小・中学校を合わせて20
人弱となっており、不登校の要
因については、家庭環境や学校
生活人間関係など様々で、児童・
生徒一人ひとりによって異なっ
ている。不登校児童・生徒のあ
り方については、文部科学省の
通知では、不登校支援は学校へ
の復帰のみを目標とするのでは
なく、児童・生徒の社会的自立
を目指すことが重要とされてお
り、本町においても、不登校の
要因を適切に把握しながら、一
人ひとりの状況に応じた支援に
取り組んでいる。



映像はこちらから



一般質問

一般質問はMMネットの行政チャンネルで翌日の午後8時、翌々は午後1時から放送されています。



う え ら や す ろ う
上村 康郎 議員

オンライン診療の活用による医療体制の充実について

① 診療所を、高度専門医とのオンライン接続拠点として活用を。
答 専門医とのオンライン接続拠点を活用する可能性も更に検討を進めたい。

問

オンライン診療は医療格差是正の一助として期待される。特に専門医の判断が必要な場合でも遠方へ行かず、診療所で専門医とオンラインで問診や相談ができる体制が望まれるがどうか。
健康福祉課長 丹生診療所と専門医をつなぐオンライン診療を、課題整理を行いながら実施しているが、実情に応じた効果的な活用方法について検討を進めたい。

② 丹生診療所の週3回の診療は、オンライン診療の活用次第で診察時間や診察日が拡充できるのではないか。
答 今後の診療体制の維持・充実を図る上で、東部診療所との連携による活用の可能性もあると認識している。

問

東部診療所との接続などオンライン診療の活用次第

で、むしろ利用機会の拡大が可能ではないか。

健康福祉課長 対面診療との適切な組み合わせや遠隔での診察を現場でサポートする看護師の育成・配置といった課題もあるが、利用機会の確保・拡大の視点でも、効果的な活用方法を検討する。

③ 子育て・現役世代を念頭に、診療時間や小児科機能の拡充をお願いしたい。
答 小児科など様々な専門医との連携の可能性や診療時間など、将来的な診療所のあり方として検討したい。

問

子供医療費助成制度の実績からは多くの受診が町外に依存し、小児科機能の弱さや受診環境の課題が読み取れる。東部と丹生をオンラインでつないで医師の勤務シフトをうまく組めば、大幅な体制拡充を伴わずに診療時間や土曜診療の拡充が可能ではないか。
健康福祉課長 両診療所ともに小児科を標榜せず、小児用医薬品の取り扱いの制約がある。ニーズ等を把握し、小児科他の専門医との連携や診療時間など、将来的な診療所のあり方を検討したい。

① 町としての防犯カメラの整備方針を伺う。
答 関係機関や地域の意見も参考に、設置のルールや運用方法等を検討したい。

問

全国的に防犯カメラ、さらにA-Iカメラを防災や施設管理など多目的な活用が進んでいる。現状は各集落の自主的な設置補助が中心だが、町の整備方針を伺う。

総務課長 補助制度で6集落28台を設置いただいた。近年、防災や施設管理など多目的な活用を前提に整備する自治体も増えているが、管理主体、プライバシー、維持経費などの課題に関する動向も踏まえて検討したい。

② 民間ニーズも含めた共用基盤の整備が望むがどうか。
答 地域課題や住民ニーズを把握し、官民連携も視野に、町の将来像やスマートタウン構想との整合を図りつつ検証を進めたい。

問

土砂災害危険区域の監視、上水道のスマートメーター化、観光分野の人流データ活用など、すべて情報通信技術の活用で共通している。単独で難しい農林水産分野など民間ニーズも含めた共用基盤の整備を、是非、検討いただきたい。

防災技術統括幹 担い手不足などで、限られた人員で地域課題に対応するため、デジタル基盤の分野横断的な活用は重要である。また共通基盤の活用は、将来的な拡張性や運用面の効率化メリットがある。一方、目的の異なる設備の運用やルール整備など検討すべき課題も多いため、町の将来像などとの整合を図りつつ検証を進めたい。

問

③ 遠隔監視は多様な働き方の創出や障害者雇用の拡充も期待される。先進的な事業化を検討いただきたい。
答 将来を見据え、産業との連携など実現可能性を慎重に検討したい。

問

データセンター誘致による情報通信事業者との関係構築を活かし、町主導での事業化を検討をお願いしたい。

産業政策部長 共用基盤の導入には課題があるが、地域DXの推進、産業振興は重要である。AIやIoT活用の知識普及も支援しているが、産業連携など発展的な展開に向け、実現可能性を慎重に検討したい。

役場職員の充足について

① 令和9年度の職員採用に引き続き注力を。
答 住民サービスの維持・向上と持続可能な行政運営の両立を図る観点から、人材の確保・活用に取り組む。

問

産業の振興、医療・福祉は、役場職員の活躍が不可欠である。職員の繁忙感や保育士確保の課題も踏まえ、役場職員の充足をお願いする。

総務課長

応募対象年齢の引上げや公務員経験者を対象とした即戦力人材枠の新設などにより、人材力の向上や組織活性化につなげ、幅広く優秀な人材確保に努める。

② 戦略・プロジェクト推進人材の確保、若手・中堅職員の活躍を引出す人材配置を。
答 知識や経験を最大限に生かす人材配置や組織横断的にプロジェクトを進める体制づくりを進めたい。

問

国の政策動向を先取りし地域課題に紐づけた事業設計から実行まで力強く推進する体制が必要であり、町の戦略機能に人材をしっかりと配置していただきたい。

副町長

近年、国の支援制度が複雑化・多様化し補助制度を有効に活用するには、制度を読み解く力や地域課題と結び付けて具体的な事業へ落とし込む政策形成能力がこれまで以上に求められている。そのため研修等による人材育成と、知識や経験を最大限に生かす人材配置により、組織力の強化と組織横断的にプロジェクトを進める体制づくりを進めたい。

意見

町政を力強く推進していただくため、役場職員を充足し、若手・中堅職員の方々に伸び伸び活躍いただくことを強く願います。

映像はこちらから





うめづ たかひさ
梅津 隆久 議員

適正な地域公共交通の 拡大について

答 利用状況や運転手の確保、財政面などの課題を踏まえ、引き続き住民や利用者の意見を聞きながら、よりよい公共交通に取り組み。

問

公共交通として、チョイスコみはもと美浜ブルーラインの両方において敦賀方面への運行に課題が多いと言うことで直接敦賀方面に行ける運行形態がなされていない。敦賀半島西側の丹生、竹波、菅浜区民は、公共交通で敦賀に向かう場合は、佐田元岸上商店から、福鉄バス若狭線へ乗り継ぎをしなければならぬということから非常に不便を感じているとの声が高齢者から伝わってきており、当初美浜町の適正な地域公共交通の構築に関する検討課題において、原子力立地、地元3区の丹生、竹波、菅浜区の実態等のニーズ調査結果はどうで

あったのか伺う。

町長

本町に限らず、少子高齢化・人口減少が進む地域社会において、移動手段確保に努めてきたところである。コミニティバスについては、路線バスやタクシードと共に、持続可能な地域の足として、それぞれの機能の維持を念頭に、運行実態や利用者の声を踏まえ、議論と検討を重ね、現状のチョイスコや美浜ブルーラインへと展開してきたところである。コミニティバスをはじめ地域公共交通が安全安心な交通手段としてまた、持続可能な地域の足として機能できるように地域公共交通会議での議論を踏まえ取り組みを深化させていきたいと考えている。

住民環境課長

美浜ブルーラインを含めた「チョイスコみはま」の敦賀市内までの運行については、現行の福鉄バス若狭線や敦賀市内の公共交通機関の運行や経営に大きな影響を及ぼす恐れがあり、事業者から懸念する声もあります。敦賀市内までの運行効率が大きく低下するところが見込まれるため、現状通りの利便性を維持するだけでも課題が多く運用面や経済面も含め慎重に検討を重ねていく必要があると考える。

問

費用対効果の面から見ても検討課題が大きい問題とされているが、敦賀市内の医療機関とか、大型店舗などへの買い物等、利用する際に不便であることから、敦賀市への直行便を弱者救済ということ、住民サービスの向上を図る観点から、敦賀市、電力事業者等の協力を得ながら、直行便新設する方向で再検討する考えはないのか伺います。

住民環境課長

美浜ブルーラインを含めた「チョイスコみはま」の敦賀市内までの運行については現行する福鉄バスの経営に大きな影響を及ぼす恐れがあり、事業者から懸念する声もあります。敦賀市内まで運行範囲を広げた場合、町内の運行効率が大きく低下することが見込まれるため、現状通りの利便性を維持するには新たな車両の追加、それに伴う運転手の確保といった課題が生じ、運用面や経済面も含め慎重に検討を重ねていく必要があると考える。

町長

これまでの菅浜線、若狭線、いずれも国、県の支援をいただいていた運営をしてきたところであるが、一定の利用者率が確保できないと、支援は受けられない。そういう事態になつて、菅浜線を廃線にせざるを得ない状況になり、今、チョ

問

イスコに転換をしているところであり、我々も最大限そういったものを活用しながら、地域公共交通の維持に努めているわけである。ご理解をいただきたい。地元、原子力3区の問題は今日まで、発電所が誘致され約50年間、国のエネルギー政策に協力してきたということで、原子力の立地交付金、核燃料税等を充当し運営していく考えはないのか伺いたい。

町長

立地地区であるとか、費用対効果というのは、しっかりと税金を活用する我々にとつて重要な視点かと思う。そういうところを総合的に踏まえての判断をこれからということになるのかなと思うのでご理解いただきたい。

答

県道敦賀・美浜線
山土地係の空き家解体
中断状況について
県の管理指導であることから、この建物に関しては、今後も引き続き注視していきたいと考えている。

問

過去にモーターという名前の老朽建物であるが、この解体作業が、中断されたままで約5ヶ月以上放置されている。強風時には、飛散物に

よる危険があるとか、景観を非常に悪くしている。聞くところによると、解体工事に必要な届出書類が、関係業者から県に出されていないのが原因と聞いている。行政としてどのように現状把握をしているのかを伺いたい。

土木建築課長

土木建築課長県の情報によると解体工事に必要な届出の不備は解消され、受付が完了していると伺っている。

問

工事再開はいつ頃になるのか、聞いていないのかお聞きする。

土木建築課長

再開の工程については今のところ、お聞きしていない。

問

美浜の玄関先の景観改善のためにも1日も早く、安全に解体撤去していただくよう行政からも県の方へ要請すべきと考えるが対応についてお聞きする。

土木建築課長

県の指導経過を引続き注視していきたい。

映像はこちらから



一般質問

一般質問はMMネットの行政チャンネルで翌日の午後8時、翌々は午後1時から放送されています。



あだち みき 議員
足立 美希

① 教育大綱について

問

教育大綱の指標は学力調査受験者を母数としているのだが、不登校児童生徒の回答は含まれていないという理解でよろしいか

教育総務課長

教育大綱の成果指標は全国学力・学習状況調査を活用している。

不登校児童生徒についても別室受験など可能な限り受験機会を確保に努めているが、受験に至らなかった場合は結果に含まれない。

問

現在の指標では、結果として学校に来られている子どもたちの満足度が町全体の成果として示される構造になっていないのか。不登校児童生徒への支援の成果やその児童等の意識はどのように可視化され、政策評価の中でどう位置づけられるのか。

教育総務課長

学力調査は代表的な指標の一つであり、それだけで全てを評価しているわけではない。学校や

教育支援センターでの面談や支援記録を通じて個々の変化を把握している。今後は不登校児童生徒の意識や自己肯定感についても丁寧に把握し、より実態に即した評価に努める。

② 不登校児童生徒とその家族への包括的支援について

問

町内には「はじめの一步」という会があり、行政だけでは届きにくい家庭を支えている。こうした地域活動を町はどのように認識し、今後どのように関わっていく考えか。

こども未来課長

「はじめの一步」は、保護者同士が支え合う重要な地域活動と認識している。これまでも広報掲載や会場提供、関係機関との情報共有を行ってきた。今後も連携を強化し、活動情報により多くの家庭に届く仕組みづくりに取り組んでいく。

問

支援が学校復帰を前提としてしまうことで、子どもや保護者が負担を感じる場合がある。町は不登校支援においてどのような状態を目標としているのか。「学校に来てほしい」「学校を楽しんでいる」という思いは、

教職員や町として自然な願いである一方で、その思いが無意識のうちに学校復帰を目標とした方向へ働いてしまうこともあるのではないか。学校復帰を目指すのか、安心して自分らしく過ごせる状態を目指すのか。そういった支援の前提となる価値観を町として共有しているのか。

教育総務課長

町は学校復帰だけを目標としているわけではない。児童生徒が自ら進路を考え、社会的に自立していくことを目指している。学校復帰を一律に求めるのではなく、一人ひとりの状況や家庭の意向を尊重しながら支援を行っている。今後においても関係機関と連携しながら児童の思いに寄り添い、安心して過ごせる環境や多様な学びの場の確保に努めるとともに、家庭への支援の充実も目指していく。

意見

復帰できない期間の子どもの価値が宙に浮いてしまわないよう、学校復帰を前提としない安心できる居場所づくりや心身の安定や健康を第一目標にするといったことを町の施策として今後明確に位置付けていただくことを願う。

③ 不登校児童の健康診断について

問

心身の安定を第一に考える上で、健康管理も重要である。不登校児童生徒の健康診断の未受診状況はどのように把握しているか。

教育総務課長

各学校からの報告により把握している。時間帯の調整や別室対応など受診しやすい環境づくりに努めているが、未受診となっている児童生徒も一定数いる。

問

受診できなかった場合のフォロー体制はどうなっているか。

健康福祉課長

個別受診の案内や結果提出の依頼を行い、未受診が続く場合は学校医と相談しながら継続的な受診勧奨を行っている。

問

高校へ進学していないあるいは退学した未成年者など、学校や職場に所属していない若者の健康確認はどのように行われているか。

健康福祉課長

現行制度上、定期的に健康状態を把握する仕組みがなく、十分な実態把握はできていない。

問

その在り方については検討が必要であると考えるが町の考えを伺う。

健康福祉課長

若い世代から健康状態を定期的に確認することは重要であると認識している。今後、集団健診の対象拡充も含め、誰もが健康に過ごせる支援体制について検討していく。

意見

人数の問題ではなく、一人ひとりの子どもと家庭の人生に関わる課題である。不登校児童生徒の回復や自己肯定感が政策の成果として正當に評価される仕組みがあつてこそ包括的な支援と言える。支援を用意するだけでなく、本當に必要な人へ届いているのかという視点を持ち、制度の隙間に置き去りにされる子どもや家庭を生まない仕組みづくりについて、指標のあり方も含め今後の整理を求める。



映像はこちらから





かわばた めぐみ 議員
川畑 恵美

デマンド型乗り合いバス「チョイソコ」におけるシルバーカーの持ち込み制限について

① チョイソコのシルバーカー持ち込み規約上の条件有無は
答 折りたたみ式で自身の席の前に納める場合は持ち込み可能。

問

デマンド型乗り合いバス「チョイソコ」において自立した生活を送る高齢者が増える中、シルバーカーの車内持ち込みを運転手に断られた利用者がいる。現行の会員規約第8条には車いすやベビーカー等の持ち込み禁止は記載されているが、シルバーカーについての明記はない。折りたたみ式など一定の条件を満たした場合の持ち込み可否について町の見解を問う。

町長

高齢化が進む中、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境整備は最重要課題。地域の繋がりが希薄化する今こそ、支え合いの源泉となる「地域愛」を育み、誰もが社会参加しやすい

い地域福祉の充実へ取り組む。

原則はお断りしている。利用者が自身でシルバーカーを折りたたみ、車内に持ち込みができるなど、一定の条件を満たしていただければ可能である。自身の前に収めるなど、他の利用者の迷惑にならないことが前提。折りたたみしないタイプは通路を塞ぎ乗降の妨げとなるほか、急ブレーキ時の損傷や他者が怪我を負うリスクがあるため車内持ち込みを制限している。

住民環境課長

② 持ち込み基準の明確なガイドライン作成と周知の考えは
答 会員規約を改正しパンフレットや町HP等で周知徹底する。

問

今後、シルバーカー等の歩行器具が必要で持ち込みを希望する利用者が増加した場合、持ち込み可能なサイズや条件について、利用者に向けた明確な案内となるガイドラインを運行会社と検討し、作成・周知すべきと考ええるが、現状これまで明確なアナウンスがなかった点も含めて町の見解をお伺いする。

住民環境課長

今後、シルバーカーの取り扱いについてはパンフレットへの記載がなかったため、今後は会員規約を改正し、パンフレットに記載すること考えている。また、町ホームページ等で周知を図っていく。

③ 将来的な車両更新の際のシルバーカー積載スペースの確保は
答 専用装置等がある介護タクシー等の既存制度利用で安全確保。

問

定期便の時間帯は学生の通学や通院で利用人数が多く、荷物となるシルバーカーは折りたたみ式であつても場所を取ることが予想される。現状の車両構造上持ち込みが難しい場合、将来的なチョイソコの車両更新や仕様見直しの際に、シルバーカーや折りたたみ車椅子を積載できるスペース確保を検討すべきだが方向性を問う。

住民環境課長

現在の車両は構造上、十分な積載スペースがない。専門知識のない運転手が無理に乗降介助を行うと転倒等の危険が伴い負担や責任問題にも発展しかねない。乗車時に介助が必要な方は専用装置や専門人材が配置される介護タクシー等の既存制度を利用いただき安全快適な環境を確保することが適切である。

意見

チョイソコはさまざまない理由で自動車運転できない方にとって大事な交通機関。町に合わせた利便性向上を期待する。

町内公共施設におけるシルバーカーの設置とバリアフリー化について

① 町庁舎と並びあすの玄関へ貸出用シルバーカーの新設は
答 高齢者が多く来訪する両施設へ配備できるように現在準備中。

問

「はあとびあ」では自身のシルバーカーを持参できない利用者が多く貸出用が不足する場面があつた。現在、町庁舎や「はあとびあ」の玄関には車いす等はあるがシルバーカーはなく歩行困難な来庁者には不安が残る。チョイソコに歩行器等を載せられない現状を踏まえ館内貸出用を新設する考えを問う。

総務課

公共施設におけるシルバーカーの配備は、来庁される高齢者目線に立ったきめ細やかな心配りと利便性を確保する上で重要な視点であると認識している。町では既に利用者からこうした要望があることから、役場庁舎と並びあすに配備できるよう衛生管理やスペース確保など現在準備を進めている。

シルバーカー設置状況



町庁舎

はあとびあ

② ユニバーサルデザインとバリアフリー化推進の取り組みは
答 ハードとソフトの両面から誰もが安心して利用できる環境へ。

問

高齢者や歩行困難な方がどの公共施設でも安心して自立した移動ができるよう、今後のハード施設や設備、ソフト運用や制度のユニバーサルデザインやバリアフリー化の推進に向けた、町の具体的な取り組み姿勢について伺う。

総務課

一昨年の町庁舎大規模改修で専用駐車場やスロープ手すりの整備、段差解消のハード面を進め、窓口集約や総合窓口設置のソフト面も整備した。今後も段差解消やトイレ洋式化、わかりやすい案内表示や職員の接遇など、全ての利用者が安心して公共施設を利用できるよう努める。

意見

今後さらに住みやすい美浜町となるよう、きめ細やかな配慮と利用者の目線に立った環境整備の継続を要望する。

映像はこちらから



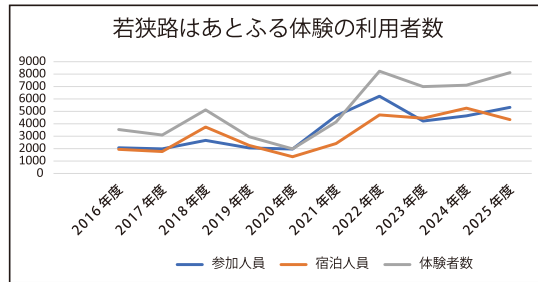
美浜町の「関係人口」について

人口減少や少子高齢化が進む中、地方自治体にとって「移住・定住者を増やすこと」は共通の大きな課題です。しかし、住む場所を突然変えることは容易ではありません。だからこそ、これからの美浜町に今求められているのは、居住者を増やす前段階として「まずは美浜町を知ってもらふこと」を最優先にし、地域と多様に関わる「関係人口」を増やしていく視点です。

若狭路はあとふる体験

その先進的な取り組みとして、本町で大きな役割を果たしているのが「若狭路はあとふる体験」です。町外から訪れる生徒たちは、美浜町の美しい海や山、湖に囲まれた豊かな自然の中で、漁業や農業、伝統的な食文化を学びます。そして、受け入れ家庭との交流（民泊）を通じて、「第二のふるさと」と呼べるような温かい関係性が育まれます。数年後、大人になった生徒たちが「泊まった家が懐かしい」「また美浜に行きたい」と、再びこの地に足を運ぶリピーターとなり、立派な関係人口へと成長していくのです。

今すぐ住民の数が増えなくても、仕事やボランティアで定期的に関わる人、旅行や体験活動で繰り返し訪れる人の流れが継続すれば、そこには活気あるコミュニティが維持され、「過疎」とは少し違う町の未来を創っていくのではないのでしょうか。美浜町を訪れる人の新しい視点や活力を呼び込むことで、地域のさらなる魅力を引き出し、活性化へと繋げていくことが期待されます。



【データ提供】一般社団法人 COLORS プラス



5月に「若狭路はあとふる体験」で来町された尼崎市立武庫東中学校の仁科良久校長先生にお伺いしました。

なぜ「はあとふる体験」を貴校の行事として選ばれたのでしょうか。

「兵庫型体験教育」の趣旨を踏まえ、人間関係の希薄化や体験活動の減少などが進む中で、子どもたちに多くの人や社会、自然などと直接触れ合う機会を増やすために取り入れました。

実際に生徒たちに体験させてみて、どのような変化や感想がありましたか。

「生まれてはじめて…」という感想がたくさんありました。おはぎづくり、ボート体験、トレッキング等を通して、短い時間でしたが、美浜町の温かい人柄に触れ、目には見えなくても、大きな感動と自己変容の機会をいただけたと思います。

今後、美浜町がより良い受け入れを行うための「改良点」や要望はありますか。

携わってくださった方々の人柄や想いを実感する貴重な時間でした。そのままの自然、そのままの人柄…一番難しいことかもしれませんが、変わらず受け入れをしていただけたことを望みます。

【広報特別委員会より】

今回の交流を通じ、子どもたちの健やかな成長を願う気持ちを共有できました。貴重なお声をいただき、本当にありがとうございました。

編集後記

人類は古来より、水辺に暮らし、豊かな文化を育み繁栄してきました。「美浜町の関係人口」をテーマに掲げた今号の表紙は、その歴史と未来の共栄を象徴する一枚です。

明治期から「一艇ありて一人なし」の精神で水上を疾走してきたボート競技の花形「エイト」。

そして、最新技術で環境に配慮し、新たな交流を生み出す「三五湖ネイチャークルーズ」「電池推進遊覧船」。美浜の美しい水辺で伝統と未来が調和する姿は、これからの町の歩みを表しているようです。外から訪れる人々を引きつけるこの湖のように、議会も多様な声を繋ぎ、輝く未来へ舵を取ってまいります。（川畑 記）

美浜町議会広報特別委員会

【委員長】川畑 恵美

【副委員長】福田 新八

【委員】兼田 和雄・幸丈 佑馬

町野 久幸・藤田 憲弘

上村 康郎

